から女性に花を贈る文化を広めようと、鴻巣市は来年2月、市内の商業施設で「フラワーバレンタインキャンペーン」を初めて開催する。市は「この場を借りて、女性への日頃の感謝を伝えてみませんか」と参加を呼びかけている。

市観光戦略課によると、鴻巣はプリムラやマリーゴールド、サルビアなどの全国有数の産地。欧米ではバレンタインデーに男性から

り、地域産業である花のPRと消費拡大のため、キャンペーンを行うことにした。

花束を大切な人に贈る「花贈り体験」（募集人数4組、応募多数の場合は抽選）、切り花アレンジ、花の寄せ植えなど3種類の「フラワーアレンジメント体験」（同各20人、材料費2000円、先着順）のほか、男女5人ずつが〝集団お見合い〟する「フィーリ

を企画している。20～35歳の独身の男女各10人を募集し、応募者が少ない場合は中止する。

「花贈り体験」「フィーリングカップル」は15日から募集を始めた。「フラワーアレンジメント体験」は22日から申し込みを受け付ける。市外からも参加できる。

キャンペーンは2月11日、同市北新宿のウニクス鴻巣イベント広場で開かれ、午前10時30分～午後3

同課（048・501・6818・541・1321）へ。

富士見産米 日本酒

「縄文海進」販売開始

富士見市産の新米を使った純米吟醸酒「縄文海進」＝写真＝の限定販売が、同市内の酒類販売店20店で始まった。

縄文海進は、1992に造られたのが始まり。毎年、同市の農商連携事業として市商工会などが造り、年末に発売している。酒米には県奨励品種の「彩のきずな」を使い、越生町の「佐藤酒造店」が醸造した。

1・8㌔入りが税込み2127円、720㍉㍑入り1063円で、計2000本を販売。問い合わせは市商工会（049・251・7801）へ。

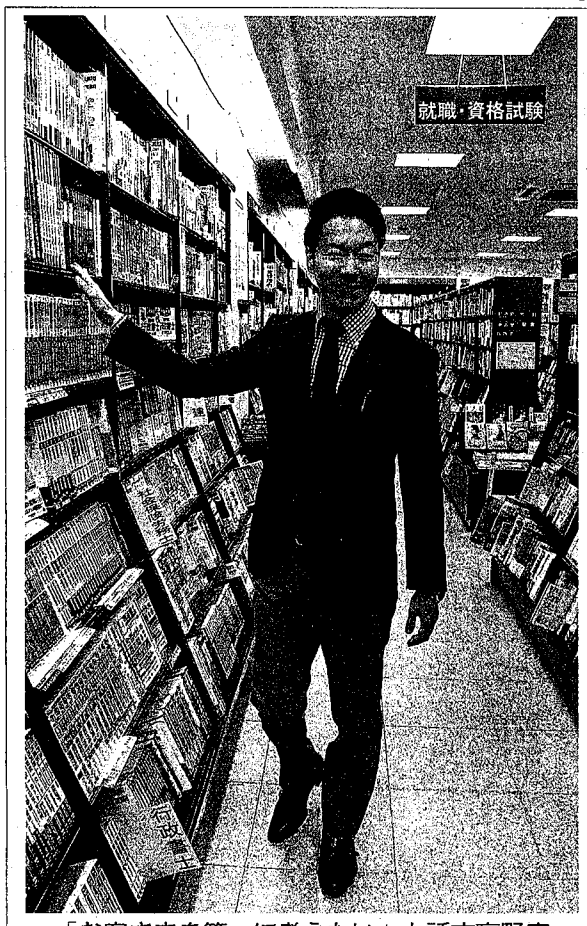
須原屋 創業140年

「まちの書店」信念貫く

レッズ本から専門書まで

さいたま市浦和区仲町の書店「須原屋」が今年11月、創業140周年を迎えた。本離れが進み、書店に逆風が吹く昨今。市民に長年親しまれてきた「まちの書店」のこれまでと、これからを聞いた。（植村信介）

埼玉 けいざい



「お客さまを第一に考えたい」と話す高野康司さん（さいたま市浦和区の須原屋本店で）

JR浦和駅西口から徒歩数分の須原屋本店に入ると、水音が聞こえてくる。地下1階のフロアにある噴水「知恵の泉」だ。「地域の人の知恵の源でありたい」と、本店が新築された1972年に作られた。店内には、埼玉を特集した本や出版社別のおすすめ本のコーナーなどがある。

「こだわりを持ってやっている」と話すのは、統括部長の高野康司さん（32）。人気の本や新刊を並べるのはもちろん、サッカーの浦和レッズに関する本なども集め、品ぞろえを充実させている。教員や県、市などの職員も多く訪れる本店には、ニーズに応えられる専門的な「堅い本」も置いて、全国チェーンの書店との差別化を図る。「須原屋に行けば本がそろっている。そう思われたい」と、地域の「知恵の源」を目指す姿勢を大事にする。

現在、須原屋も他の書店同様、売り上げが伸び悩んでいるのは事実だが、「時代が変わっても本がなくなることは絶対にない。手でめくるリアルな魅力がある」。4年前に死去した3代目の祖父、高野嗣男（つぎお）さんの「通りを歩く人、地域の全ての人がお客さま」という教えを康司さんは胸に刻む。

須原屋本店の外観

2年前にはJR側との交渉を経て、武蔵浦和駅構内に支店をオープンさせた。須原屋が駅に進出するのは初めてで、電車の利用客向けに雑誌や漫画などを多く置いて売り上げ増を図っているという。

日本書店商業組合連合会（東京都千代田区）によると、県内の組合に加盟している書店数は2006年に235店あったが、販売不振が主な理由で、今年4月時点では92店減って143店という。全国チェーンの書店は加盟していない。

店の礎築いた3代目

「須原屋塾」で後継育成

須原屋の始まりは古く江戸時代にさかのぼる。8代将軍徳川吉宗の時代、和歌山県にあった須原村から江戸に移って書店を始め、杉田玄白の「解体新書」も出版していたという。

明治に入り、埼玉県で教科書を刊行する権利を国から得て、1876年に浦和の現在地に店を構え、教科書販売を中心として販路を拡大していった。戦中は休業状態となったが、戦後、3代目の高野嗣男さんが5坪の敷地面積から営業を再開し、店を立て直した。

1981年に浦和駅西口のコルソ店、89年に熊谷店を出店。高野康司さんは、嗣男さんのことを「現在の須原屋を作った人」と言い切る。

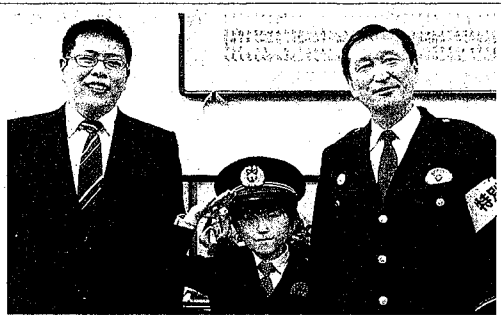
書店団体の要職にあった嗣男さんは75年、「須原屋研修所」を始め、全国から20代前後の書店の後継者を集めて寮に住まわせた。午前8時から営業開始までの約1時間半ほど、座学で簿記や会計学を学ばせ、日中は店舗で働かせながら書店の仕事をたたき込んだ。2006年までに育成した177人は、全国の書店で活躍している。

晩年、嗣男さんは「全国にいる研修生が一番の遺産」と話したという。「須原屋塾」「高野塾」とも呼ばれた研修所を運営した嗣男さんについて、康司さんは「未来の書店のために業界を成長させようと考えたのでは」と想像する。

植木君 岩槻署で報告

おまわりさん作文受賞

第25回全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」（読売新聞社など主催、警察庁など後援）で、内閣総理大臣賞を受賞した蓮田市立黒浜南小3年の植木涼太君が19日、岩槻署を訪れて受賞を報告した。



吉崎警部補（左）に受賞の報告をした植木君（中央）（岩槻署で）

植木君は昨年夏に不審者に腕をつかまれそうになった際に対応してくれた同署の吉崎秀隆警部補のことを作文に書いた。

植木君は吉崎警部補に「あの時はありがとうございました。これからも町の安全のために頑張ってください」と感謝の言葉を述べた。吉崎警部補は「作文を書いてくれてすごくうれしい。これを励みに、植木君の期待に応えられるように頑張りたい」と話した。

市況　青果の品名単位の数字はキロ　価格は円

青果　埼玉流通情報協会

品名	単位	産地	大宮 高値	大宮 中値	浦和 高値	浦和 中値	上尾 高値	上尾 中値	春日部 高値	春日部 中値	熊谷 高値	熊谷 中値
ニンジン	⑩	（千葉）	1188	—	—	1188	1404	—	1080	—	—	—
ウンゴボウ	⑩	（千葉）	—	—	—	1620	—	—	2160	1620	—	—
イチゴ	④	（青森）	—	1836	—	1944	2052	—	—	—	—	—
ココサンチュ	④	（茨城）	—	—	—	—	2700	—	2484	—	3024	—
ホウレンソウ	⑮	（茨城）	—	—	—	1458	1296	—	—	—	1620	—
ハクサイ	⑩	（千葉）	—	1404	—	1188	1404	—	1296	972	—	—
ネギ	⑤	（埼玉）	—	—	2376	2052	2160	—	—	—	—	2484
キュウリ	⑤	（埼玉）	—	—	—	2376	3024	—	2484	—	—	—
ナス	⑤	（高知）	—	3780	—	2916	3456	—	3456	—	3375	3100
ピーマン	④	（熊本）	2700	2484	—	2160	2484	—	—	2160	2916	2700
ミニトマト	0.15	（茨城）	—	—	—	101	108	—	—	—	86	—
ショウガ	⑤	（茨城）	—	—	1512	—	1944	—	1404	—	1296	1080
モモ	⑩	（北海道）	—	2376	2484	2160	2700	—	2376	—	—	2700
イチゴ	⑩	（埼玉）	—	—	—	—	—	—	5400	—	—	4320
ネギ	⑳	（北海道）	—	1836	2160	1620	1944	—	2052	—	—	1944
ナガイモ	0.2	（埼玉）	—	—	162	—	86	—	108	—	108	97
ブロッコリー	④	（茨城）	2376	2160	—	—	1944	—	2160	1728	—	1836
カンピョウ	⑩	（愛媛）	—	—	—	3024	—	—	—	—	4320	—
ミニトマト	0.3	（青森）	—	—	4644	—	—	—	—	4860	—	4320
ピーマン		（埼玉）	—	—	—	—	—	—	520	—	—	648

野菜【東京】（大田・東一調べ・キロ）

			高値	中値
ネギ	⑤	（埼玉）	2484	—
ネギ	⑤	（千葉）	2484	—

こども支援寄金

読売光と愛の事業団

03・3217・3473

▽1万1千円＝本庄市・吉村ハル美さん（東日本大震災被災者対象の復興支援大学等奨学金へ）

交通公開取り締まり（20日）

▽昼＝無免許・速度・シートベルトなど＝春日部、東松山、浦和、秩父、新座▽夜＝飲酒・交差点関連・駐車など＝川越、浦和西、越谷、小鹿野、杉戸

USO放送

タイガーマスク運動 善意が詰まっていた

―ランドセル（富士見・ぽんくら）

TOKYO書2017

関東に拠点を置く18の書の公募団体による合同展。38作家による「現代の書」が一堂に会します。

【会期】2017年1月4日（水）～15日（日）午前9時30分～午後5時30分（入室は午後5時まで）※4日は午後1時開室）

【会場】東京都美術館公募展示室（東京・上野公園）

【観覧料】一般500円、65歳以上300円、学生以下無料

【問い合わせ】同美術館（03・3823・6921）

主催＝東京都美術館

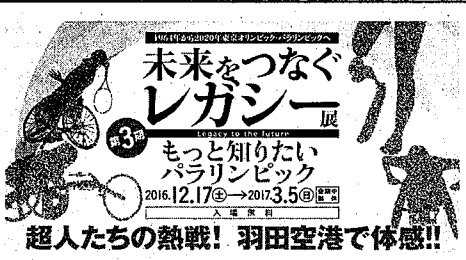
後援＝読売新聞社など

木下大サーカス横浜公演に25

木下大サーカスは来年2月26日～5日、みなとみらい特設会場で横浜公演（横浜駅東口徒歩9分）。ホワイトランのショーなど。入場料は大人3300円、子供2300円（税込み・前売りは各400円）。今回25組50人に招待券を進呈。はがきに〒住所、氏名、年齢、電話番号を記し、〒231・0023横浜市中区山下町1、大和地所ビル階、木下大サーカス横浜公演事務局まで。12月27日まで。詳細は☎045・12・0360へ。

パラリンピック展示 羽田空港で

羽田空港の国内線第2旅客ターミナルのディスカバリーミュージアムで「をつなぐレガシ～もっと知りたいラリンピック～」。来年3月5日まで催している。最術を集結させた用義足やウィルアラグビー用車なども実物展示場無料。問い合は☎03・6428735へ。



秋田農友会が新米を販売中

おいしい「あきたこまち」でおなじ秋田農友会は、今年も新米の収穫を終現在精米したてのつやつや新米を販売価格は無洗米も普通米も一緒。5キロ2939円、10キロ5238円（送料別、特産レゼント付き）。送料は関東地区86（30キロまで）。また、2キロ1470円料込み、特産品のプレゼントは無し）。

意。

問い合わ

0120・236

http://w

nouyu.jp